



1



2



3



4



5

1_牛淵の神輿が浮嶋神社に
宮入り /2_岡八幡神社から宮
出し、長い階段を下る西岡の
神輿 /3_上林のささゆり団地
で獅子舞を披露 /4_練習の成
果を披露して溢れる笑顔 /5_
さくらの湯で北方の神輿同士
が鉢合わせ /6_三奈良神社で
下林と見奈良の神輿が鉢合わ
せ /7_徳威三嶋宮で北野田と
南野田の神輿が鉢合わせ

秋祭り

10月11日㊤、夜明け前から太鼓の音が鳴り響き、ま
ちの至るところから威勢の良い声が聞こえた。「祭りで地
域を盛り上げたい」「伝統を繋いでいきたい」。それぞ
れの思いを胸に、活気と笑顔で溢れた1日を振り返る。



6





18



19



10



11



12



13

8_ 大人も子どもも笑顔が溢れる北方の櫻神輿会の皆さん
/9~12_ 神輿と一緒にはいチーズ /13_ 田窪の三番叟。獅子の
さんばそう
背に乗って登場 /14_ 新村の子ども神輿と写真を撮る子どもたち
/15_ 観客に近づいて福をもたらし見奈良の獅子舞 /16_ 市
指定無形民俗文化財の牛湊のねり行事 /17_ 田窪団地集会所
で神楽を舞う /18_ たすきを掛けて子ども神輿を取り仕切る
/19_ 夕暮れ時も力を振り絞る志津川中央会の皆さん /20_ 長
年樋口の祭りに携わった和田忍勝さん（写真中央）と撮影



14



15



16



17



18



19



20

南野田で72年振りに神輿を新調。

南野田の神輿は、昭和29年に作られてから、雨風や鉢合わせで傷む度に修繕を重ね、大切に受け継がれてきた。新調の話が持ち上がったのは12年前のこと。子どもの頃から祭りに携わってきた宮崎里志さんが中心となり、地区全体で資金の積み立てや寄附を募るなど協力して準備を続け、今年9月、ついに完成した。新調した神輿には、宮崎さんが調べて取り入れた、さまざまな工夫が施されている。担ぎ手が持つ柄は、以前より長くすることで大人数が担ぐことができるようになった。また、本体の下に土台部分を

作り、神輿が直接地面に触れないようにこだわった。さらに、鉢合わせの際に傷みやすい各面の鳥居は、磁石で簡単に取り外せる構造にし、壊れやすい細かな部品を減らすことで、修繕の手間を抑えられるようにした。新しくなったのは、神輿だけではない。獅子舞の際に地面に敷くシート、法被及びのぼりも新調した。この世代で一新することで、再び地域の人たちが集い、祭りを盛り上げるきっかけにしたい。そんな熱い思いが込められている。秋祭り当日の朝、北野田との鉢合わせを行った後、担ぎ

「神輿をきっかけに地域に新しい風を吹かせたい」
その思いを胸に迎えた、秋祭り当日。

手たちは、夕方まで各所を練り歩いた。神輿を担いだ平岡鼓太郎さんは、「以前の神輿よりも担ぎやすく、疲れの感じ方が全然違う。これから何年にかけて、神輿と思い出を重ねながら、地域の祭りを支えていきたい」と思いを語った。南野田獅子舞保存会会長の大川摂子さんは、「神輿を新調したことで多くの人が集まり、楽しい祭りになった」と笑顔を見せた。12年越しの神輿の新調と祭りを終えた宮崎さんは、「地域の人たちから『ようやくたのう』と声を掛けてもらい達成感を感じ、最高でした」と振り返る。

また、今年から南野田では、各中継所の出発前に子どもたちを神輿に乗せて差し上げを行った。年配の人からは、女の子を神輿に乗せることに驚く声もあったが、宮崎さんが「今年から変更したんだよ」と説明すると、反対する人はいなかったという。「新しいことも、柔軟に受け入れてくれる南野田の皆さんと、これからも祭りを盛り上げていきたい」と話す。

受け継いできた伝統を大切にしながら、時代に合わせて変えていく。新しい神輿とともに、南野田の祭りは、次の世代へ続いていく。



神輿を地域の皆さんにお披露目



神輿の上でくす玉を割る宮崎さん



新しいシート、法被及びのぼり



新調した神輿と平岡さん



北野田(左)の神輿と合わせて宮入り

名物の夫婦獅子。黒髪の雄獅子が舞うのはここだけ。



上 村の獅子舞と言えば、黒髪の雄獅子と白髪の雌獅子が舞う「夫婦獅子」。上村獅子舞保存会会長の高須賀聖泰さんは、「2体で舞う獅子舞は市内の他の地域にもありませんが、黒髪の雄獅子が舞うのは上村だけで、この演目が祭りの一番の見せ場です」と話す。力強くも優しい舞で、夫婦の獅子がお互いに見つめ合い、敵がいらないことや身の安全を確かめ合う仲睦まじい演技も見られる。

にきた地域の人たちは拍手をしながら笑顔で演舞を見守り、温かい空気に包まれる。高須賀さんは、「子どもも大人も、みんな練習以上のもので本番に出してくれて、言葉に表せないくらい感動しています」と満面の笑顔を見せ、力強い舞を披露した仲間たちを讃える。獅子のように信じ合い、気遣い合いながら、祭りを通して地域の絆を深めていく。



仲間を讃える高須賀さん



夫婦獅子で新神楽を舞い、達成感溢れる笑顔

人は少ないけど、この日だけでもまちを盛り上げたい。



秋祭りを盛り上げた則之内の皆さん

則之内の氏之宮三嶋神社から宮出しされた神輿は、東谷小学校や地域の集会所、地元企業などを練り歩く。神輿を指揮する大頭取の高須賀純さん(写真左上)は、「子どもの頃からこの地域の祭りに参加してきました。過疎化が進んでいますが、この日だけでも地域を盛り上げていけたら」と笑顔を見せる。

す。中には昔、子役をしていた人が、市外に住みながらも、祭りの時期には子どもを子役として連れてきてくれるような繋がりもあります」と話す。幼い頃に感じた祭りの楽しさや地域の人たちと過ごした思い出は、大人になっても、そしてふるさとを離れても心に残り続ける。過疎化が進む中でも、まちを愛する一人ひとりの思いが、この地域の祭りを支えている。



保存会会長 近藤さん